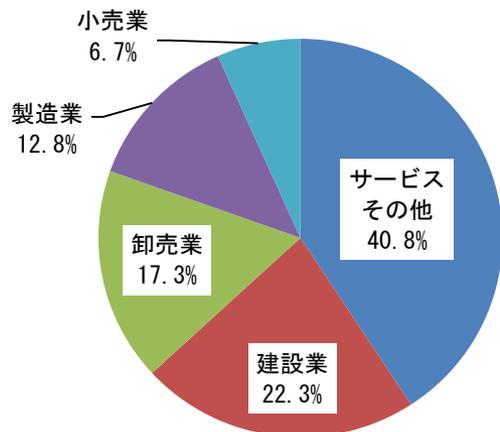


# 札幌商工会議所 定期景気調査結果（平成29年4月）

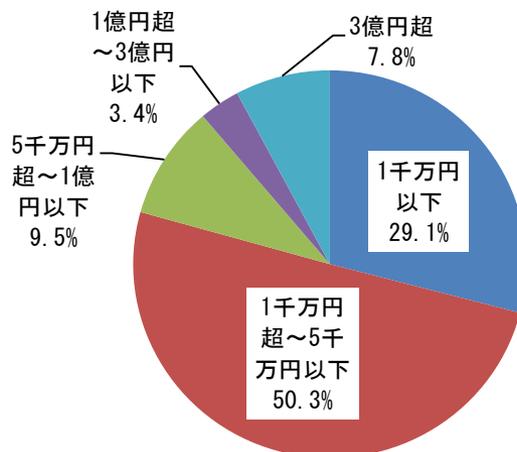
## <調査概要>

1. 調査期間 平成29年4月13日（木）～24日（月）
2. 調査対象 札幌商工会議所定期景気調査 登録企業517社
3. 回答状況 179社（回答率34.6%）
4. 調査項目 ①定例調査…4月の景況感（売上・採算等）と先行き見通しについて（D I 値 [※下記参照] を集計）  
②付帯調査…採用動向について～平成28年度の実績と平成29年度の見通し
5. 回答企業属性

【業 種】



【資本金】



## ※D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況など、各項目についての判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

$$\text{業況D I} = \frac{(\text{好転} - \text{悪化}) \times 100}{(\text{好転} + \text{不変} + \text{悪化})}$$

※先行き見通しD I = 当月(4月)と比べた、向こう3ヶ月(5月～7月)の先行き見通し

# 札幌商工会議所 定期景気調査結果（平成29年4月）

## ①4月の景況感と先行き見通しについて

### （1）4月の業況D I と先行き見通しについて

●4月の業況D I は▲15.1となり、前月から5.5ポイントの悪化となった。（※3月D I ▲9.6）

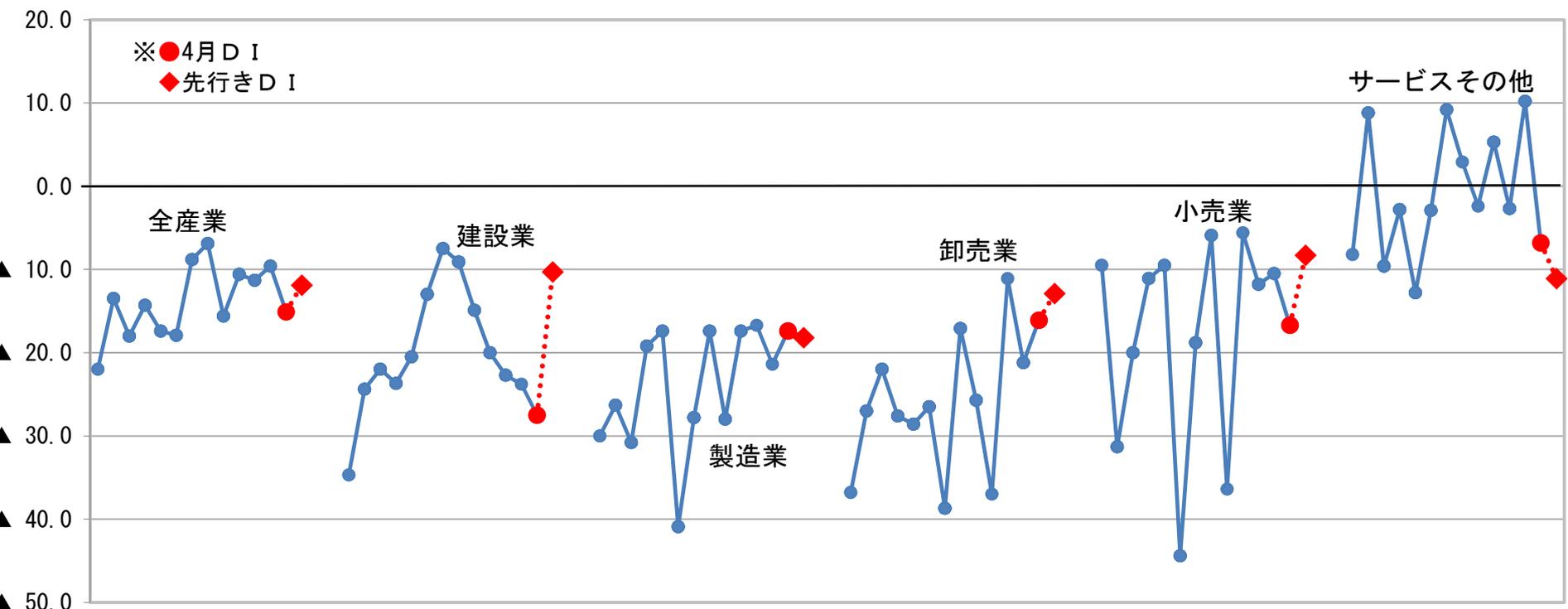
産業別では、製造業・卸売業で改善したが、建設業・小売業・サービスその他では悪化し、サービスその他においてはマイナスに転じた。

- ➡ 製造業（3月 ▲21.4→4月 ▲17.4）、卸売業（▲21.2→▲16.1）、
- ➡ 建設業（▲23.8→▲27.5）、小売業（▲10.5→▲16.7）、サービスその他（10.2→▲6.8）

●向こう3ヶ月（5月～7月）の先行き見通しD I は▲11.9となり、4月から3.2ポイント改善の見通し。

産業別では、建設業・卸売業・小売業で改善の見通しだが、製造業・サービスその他では悪化の見通し。

業況D I の推移（平成28年4月以降）



# 札幌商工会議所 定期景気調査結果（平成29年4月）

## （2）4月の売上D I と先行き見通しについて

●4月の売上D I は▲2.2となり、前月から4.9ポイントの増加となった。（※3月D I ▲7.1）

産業別では、建設業・卸売業・小売業で増加したが、製造業・サービスその他では減少した。

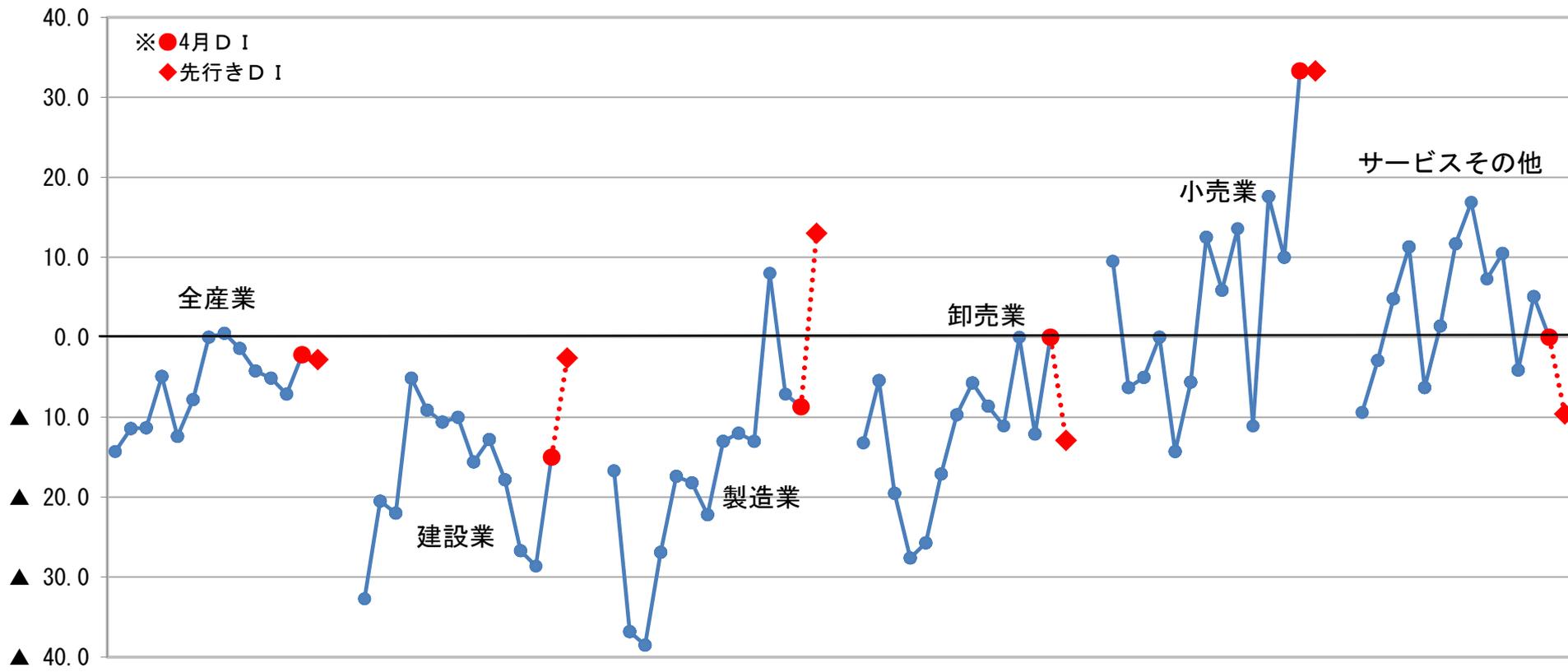
▲ 建設業（3月 ▲28.6→4月 ▲15.0）、卸売業（▲12.1→0.0）、小売業（10.0→33.3）

▼ 製造業（▲7.1→▲8.7）、サービスその他（5.1→0.0）

●先行き見通しD I は▲2.8となり、4月から0.6ポイント減少の見通し。

産業別では、建設業・製造業で増加の見通しだが、卸売業・サービスその他では減少の見通し。小売業は横這いの見通し。

売上D I の推移（平成28年4月以降）



# 札幌商工会議所 定期景気調査結果（平成29年4月）

## （3）4月の採算（経常利益）D I と先行き見通しについて

●4月の採算D Iは▲9.6となり、前月から0.6ポイントの悪化となった。（※3月D I ▲9.0）

産業別では、建設業・小売業で改善したが、製造業・卸売業・サービスその他では悪化し、サービスその他においてはマイナスに転じた。

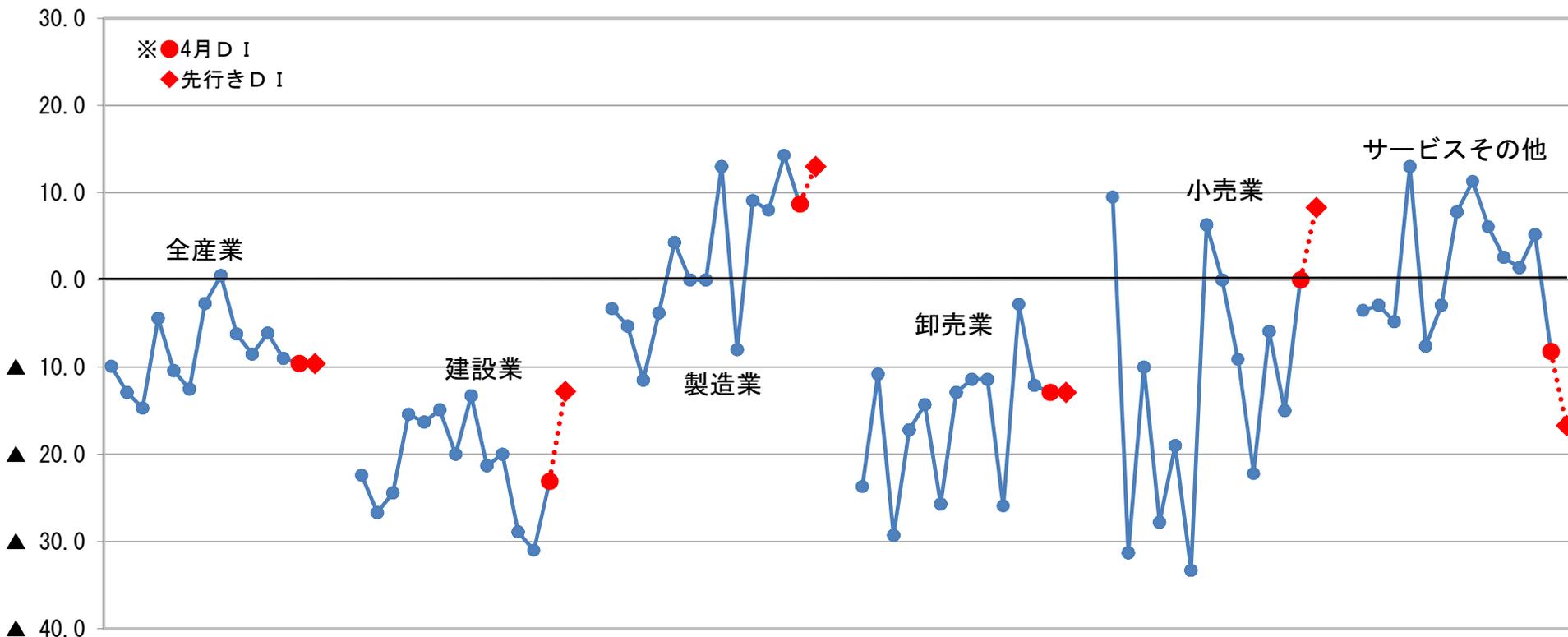
➡ 建設業（3月 ▲31.0→4月 ▲23.1）、小売業（▲15.0→0.0）

➡ 製造業（14.3→8.7）、卸売業（▲12.1→▲12.9）、サービスその他（5.2→▲8.2）

●先行き見通しD Iは▲9.6となり、4月から横這いの見通し。

産業別では、建設業・製造業・小売業で改善の見通しだが、サービスその他では悪化の見通し。卸売業は横這いの見通し。

採算D Iの推移（平成28年4月以降）



# 札幌商工会議所 定期景気調査結果（平成29年4月）

## （4）4月の仕入単価D Iと先行き見通しについて

●4月の仕入単価D Iは▲36.4となり、仕入単価が「下落」と回答した企業の割合が前月より9.4ポイント減少した。（※3月D I ▲27.0）

産業別では、建設業・小売業で増加したが、製造業・卸売業・サービスその他では減少した。

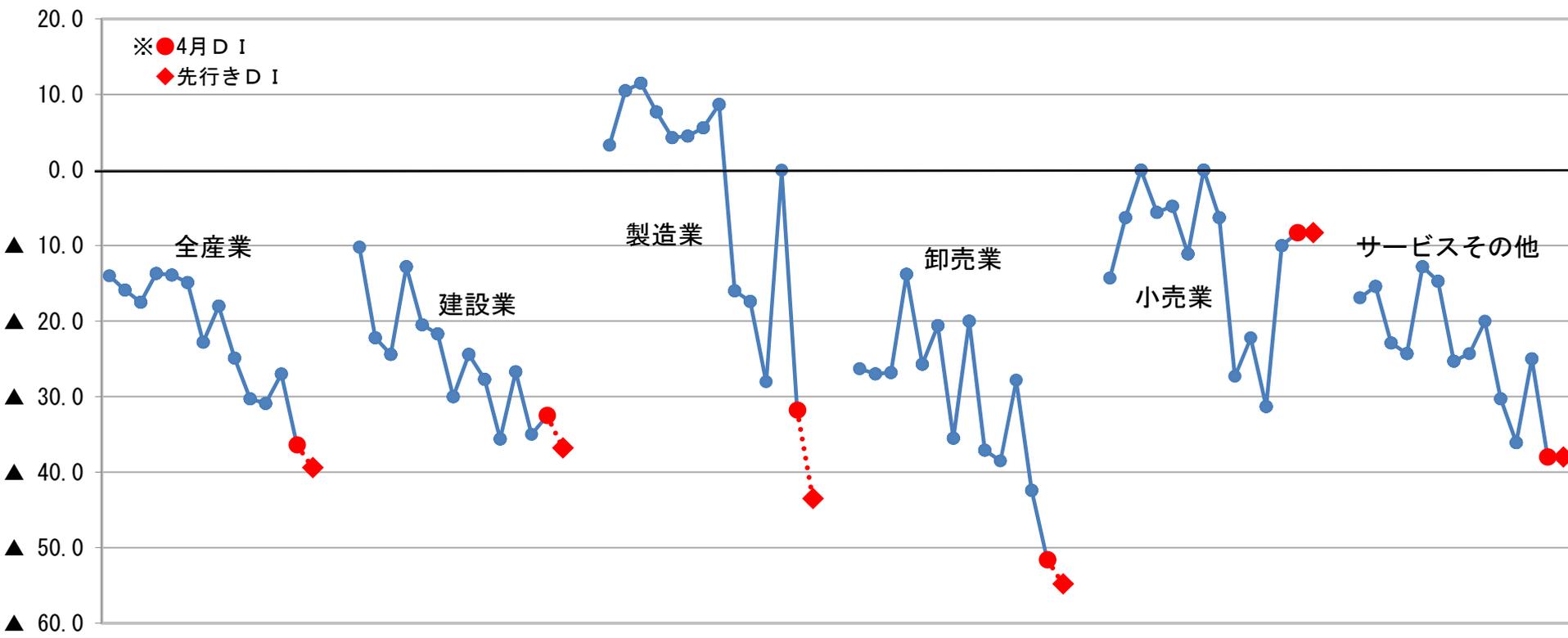
▲ 建設業（3月 ▲35.0→4月 ▲32.5）、小売業（▲10.0→▲8.3）

▼ 製造業（0.0→▲31.8）、卸売業（▲42.4→▲51.6）、サービスその他（▲25.0→▲38.0）

●先行き見通しD Iは▲39.4となり、4月から3.0ポイント減少の見通し。

産業別では、小売業・サービスその他で横這いの見通しとなった一方、建設業・製造業・卸売業では減少の見通しとなった。

仕入単価D Iの推移（平成28年4月以降）



# 札幌商工会議所 定期景気調査結果（平成29年4月）

## （5）4月の従業員D I と先行き見通しについて

●4月の従業員D I は24.6となり、前月から5.3ポイントの低下で人手不足感が弱まった。（※3月D I 29.9）

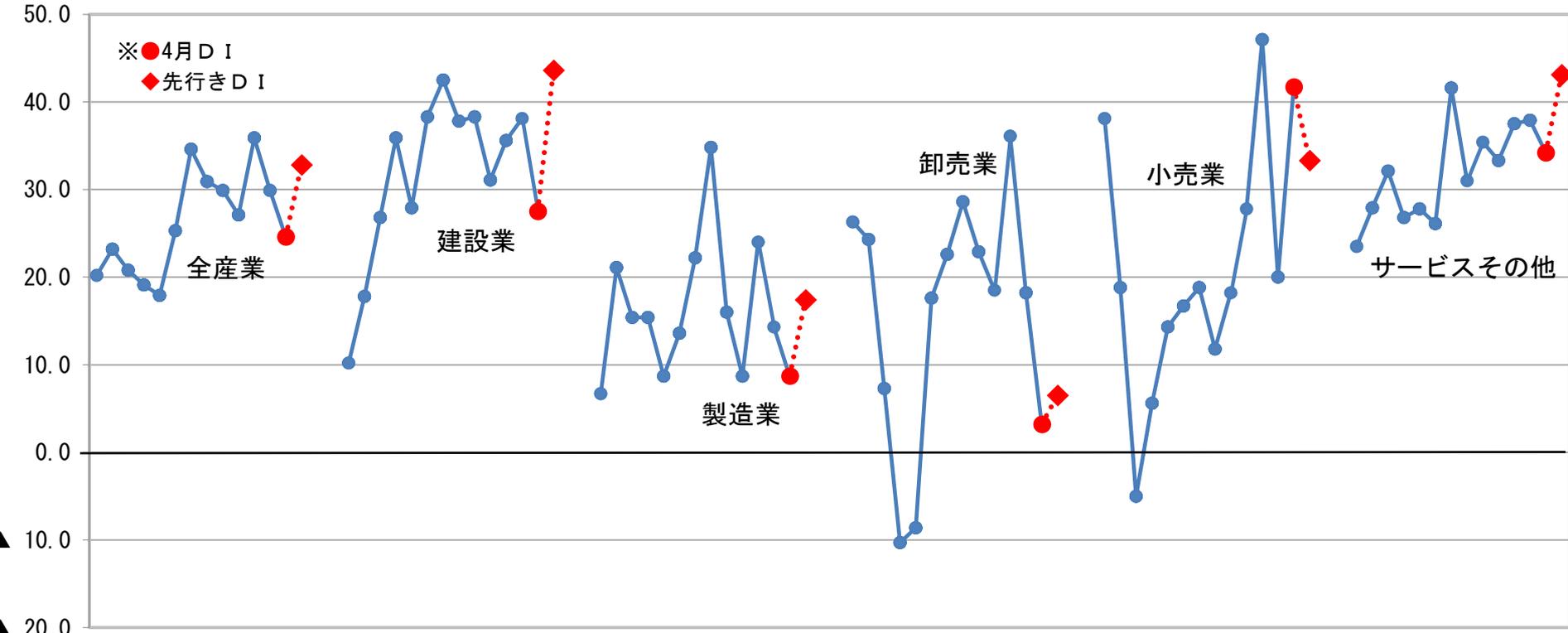
産業別では、小売業で人手不足感が強まった一方、建設業・製造業・卸売業・サービスその他では人手不足感が弱まった。

- ▲ 小売業（3月 20.0→4月 41.7）、
- ▲ 建設業（38.1→27.5）、製造業（14.3→8.7）、卸売業（18.2→3.2）、サービスその他（37.9→34.2）

●先行き見通しD I は32.8となり、4月から8.2ポイントの増加で人手不足感が強まる見通し。

産業別では、建設業・製造業・卸売業・サービスその他で人手不足感が強まる見通しとなった一方、小売業では人手不足感が弱まる見通しとなった。

従業員D I の推移（平成28年4月以降）



# 札幌商工会議所 定期景気調査結果（平成29年4月）

## （6）4月の資金繰りDIと先行き見通しについて

●4月の資金繰りDIは0.6となり、前月から2.4ポイントの改善でプラスに転じた。（※3月DI ▲1.8）

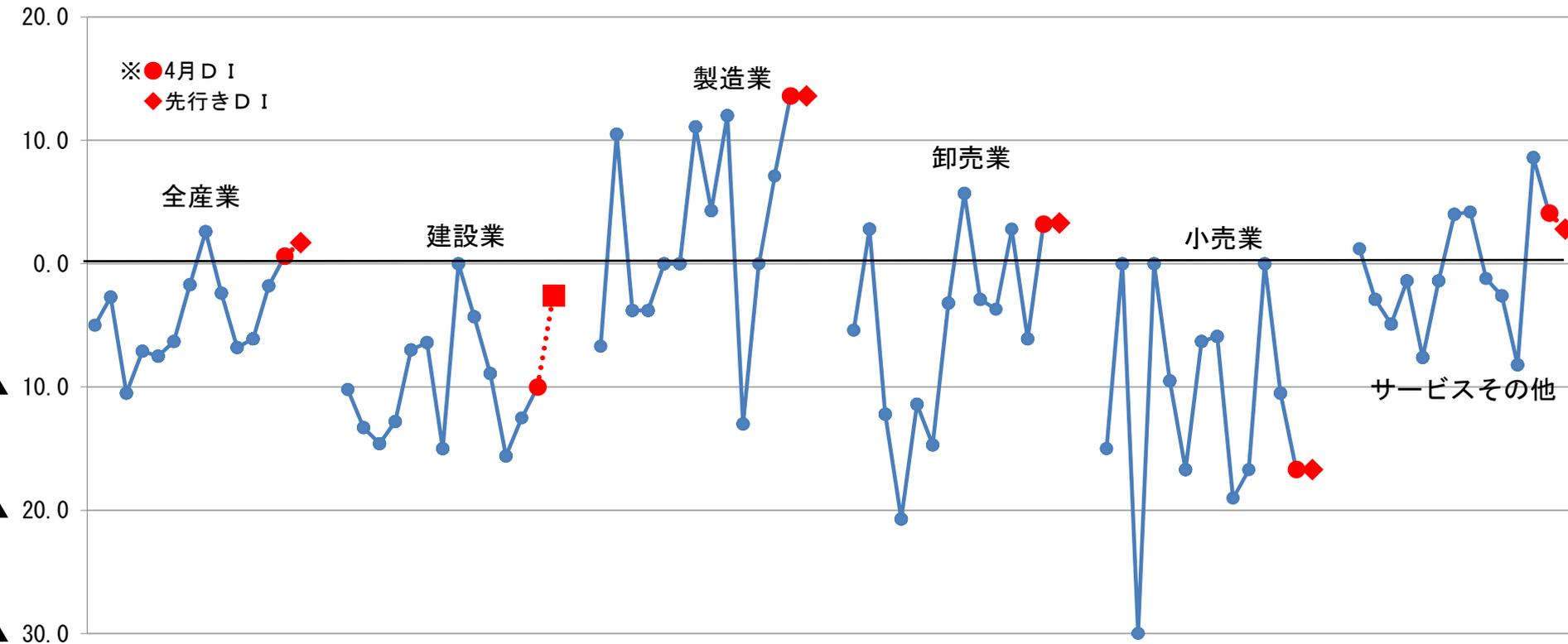
産業別では、建設業・製造業・卸売業で改善し、卸売業においてはプラスに転じた。一方で、小売業・サービスその他では悪化した。

- ➡ 建設業（3月 ▲12.5→4月 ▲10.0）、製造業（7.1→13.6）、卸売業（▲6.1→3.2）、
- ➡ 小売業（▲10.5→▲16.7）、サービスその他（8.6→4.1）

●先行き見通しDIは1.7となり、4月から1.1ポイント改善の見通し。

産業別では、建設業・卸売業で改善の見通しだが、サービスその他では悪化の見通し。製造業・小売業は横這いの見通し。

資金繰りDIの推移（平成28年4月以降）



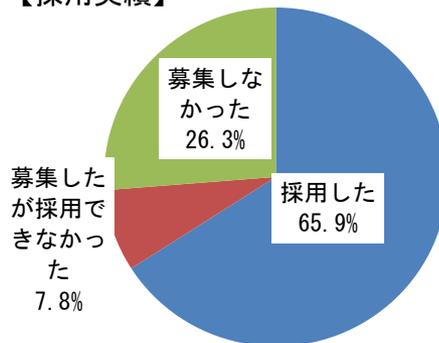
# 札幌商工会議所 定期景気調査結果（平成29年4月）

## ②採用動向について～平成28年度の実績と平成29年度の見通し

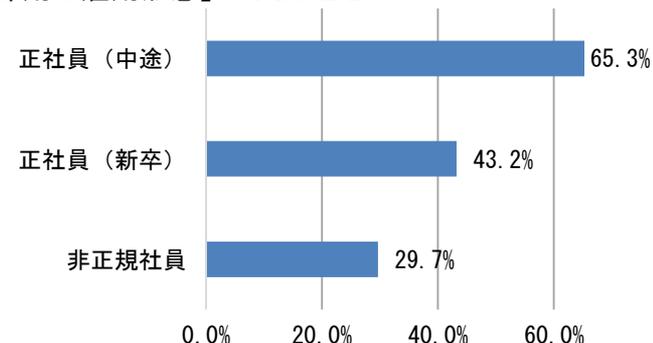
### （1）平成28年度の採用実績について

●平成28年度において「採用した」と回答した企業は65.9%、「募集したが採用できなかった」が7.8%、「募集しなかった」が26.3%となった。採用の雇用形態として、「正社員（中途）」と回答した企業が65.3%と最も多く、「正社員（新卒）」が43.2%、「非正規社員」が29.7%となった。

【採用実績】



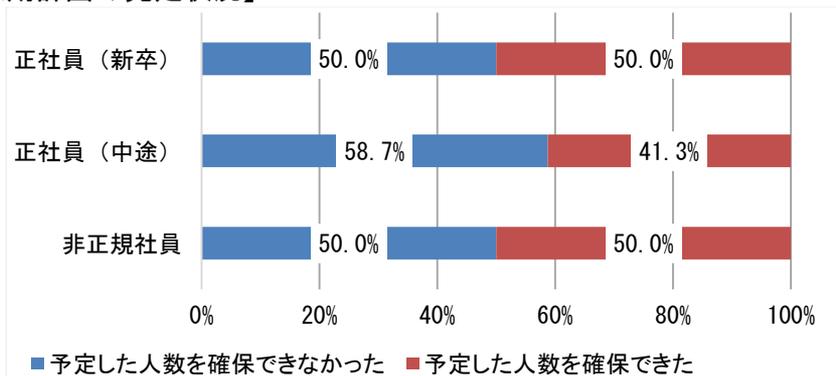
【採用の雇用形態】（※複数回答）



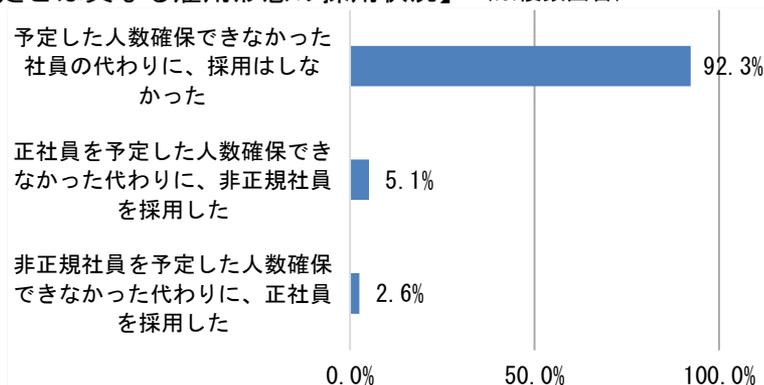
●採用計画の充足状況については、「正社員（新卒）」と「非正規社員」では「予定した人数を確保できなかった」と回答した企業と「確保できた」と回答した企業の割合が同じとなったが、「正社員（中途）」では「確保できなかった」と回答した企業が「確保できた」を17.4ポイント上回った。

予定とは異なる雇用形態の採用状況としては、「予定した人数確保できなかった社員の代わりに、採用はしなかった」と回答した企業が92.3%、「正社員を予定した人数確保できなかった代わりに、非正規社員を採用した」が5.1%、「非正規社員を予定した人数確保できなかった代わりに正社員を採用した」が2.6%と、9割以上の企業が予定と異なる雇用形態の採用を行わなかった。

【採用計画の充足状況】



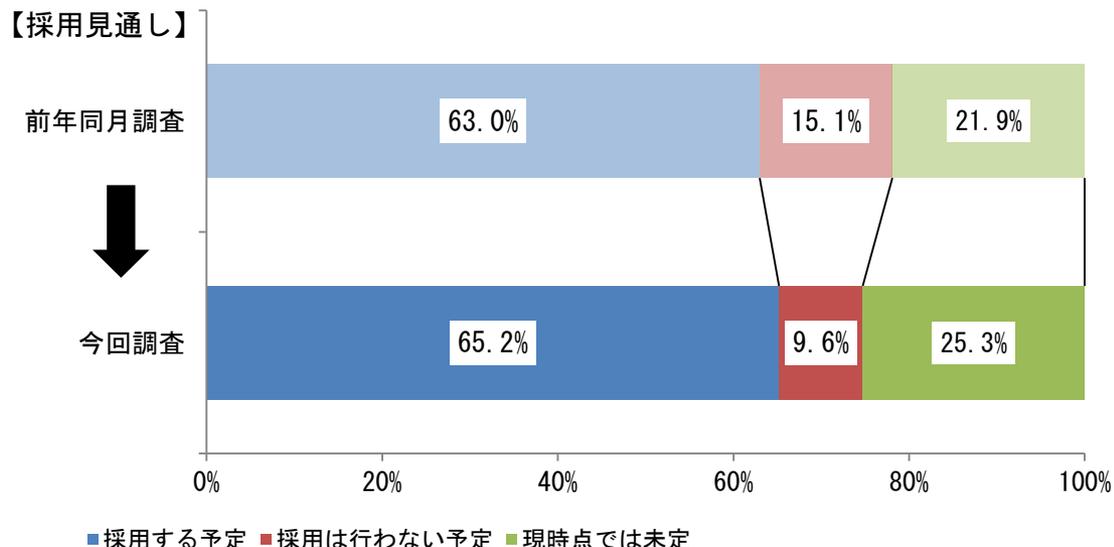
【予定とは異なる雇用形態の採用状況】（※複数回答）



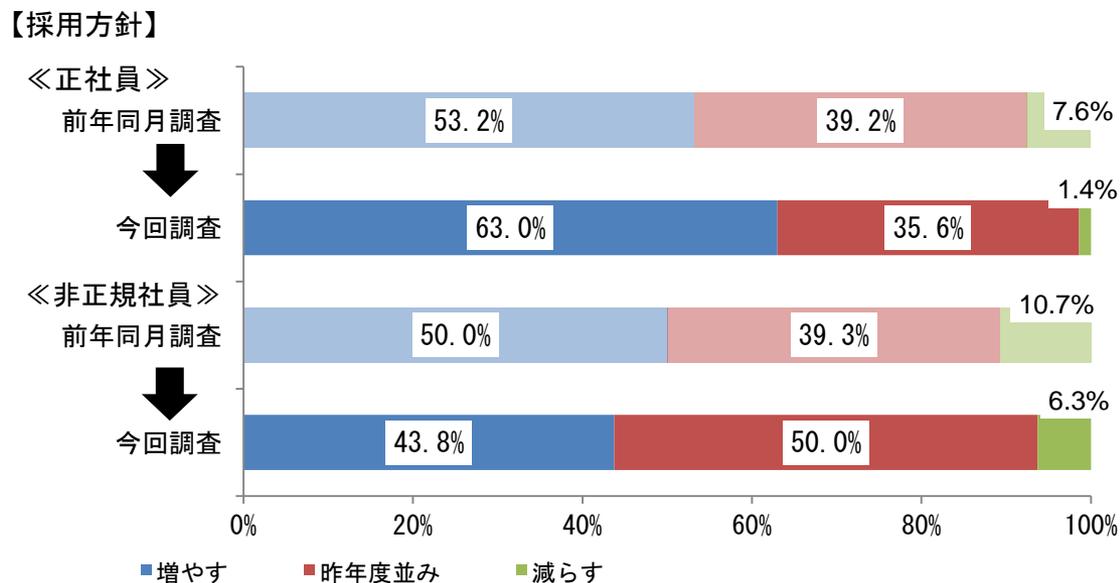
# 札幌商工会議所 定期景気調査結果（平成29年4月）

## （2）平成29年度の採用見通しについて

●平成29年度の見通しとして、「採用する予定」と回答した企業は65.2%と、昨年調査時と比較して2.2ポイント増加した一方、「採用は行わない予定」と回答した企業は昨年より5.5ポイント減少した。「現時点では未定」と回答した企業は昨年調査時より3.4ポイント増加した。



●平成29年度の採用方針については、正社員の採用を「増やす」と回答した企業は63.0%と、昨年調査時と比較して9.8ポイント増加した一方、「昨年度並み」・「減らす」と回答した企業は昨年よりそれぞれ3.6ポイント、6.2ポイント減少した。また、非正規社員については、「増やす」と回答した企業は43.8%と、昨年調査時と比較して6.2ポイント減少し、「昨年度並み」と回答した企業は昨年より10.7ポイント増加した。「減らす」と回答した企業は昨年より4.4ポイント減少した。



# 札幌商工会議所 定期景気調査結果（平成29年4月）

## ③会員企業の声

### （1）建設業

●土木系の新卒者数が減少していることに加えて、内地大手の採用意欲が相変わらず強いため、上手く採用できるか判らない状況。

舗装工事

●人手不足解消の為、工事施工の平準化が望ましい。そのためにも、工事落札から決定にいたる時期を短縮いただきたい。特に、年度当初（3～4月）に影響が大きいし、札幌市の議会承認物件では、2カ月以上の待機期間が有り、不効率である。

土木建築工事業

●時間外労働が厳しくなる見通しの中、技術者（新卒・中途）の確保が思うように進まない。

土木建設業

●先行き不透明でベースアップができない。また、就職応募者がいない。

電気設備工事業

●現在の北朝鮮の状態が不透明で、これによって建設設備投資・株価の変動が予断を許さない状態。

内装工事業

### （2）製造業

●設備投資は一巡、売上也横這いで新たな運転資金の需要も無く、手持ち資金の運用効率は悪い。売り上げが伸び運転資金需要が旺盛になるように営業の強化に注力している。

建設産業機械附帯品  
（帆布製品製造業）

●設計技術者及び同下請けの確保、製造工場での労働力の確保が課題。全般に人件費が上昇しているが価格への転嫁が思うように進まない。

コンクリート製品製造

●新規開拓活動をどの分野に向けるかの検討が課題。サービスプロバイダーとしてワンストップサービスを増やしていくことも、売り上げ増を考えるうえで必要であると考えている。

印刷業・出版業

# 札幌商工会議所 定期景気調査結果（平成29年4月）

## （3）卸売業・小売業

●国内仕入価格の動向について、特に鉄鋼価格、原油価格が販売価格に大きな影響を与える。年一度の販売価格の交渉の為、価格改定は早く今年末となり、年末の価格改定交渉は2月ごろの改定要求提示となる。非常にタイムラグがあるので、こまめな変動は経営上非常に問題がある。	ユニットハウス卸売
●売り上げの増加とお客様から求められている商品管理や衛生基準に対応するべく、事務所及び自社物流倉庫の移転をこれから進めていく予定。	業務用総合食品卸売
●国の政策で残業時間の制限、金曜日の早上がり推進等、零細企業の思いと全く逆行している感じがする。	家電小売業
●中小企業の正社員の新規雇用ならびに継続雇用をするにあたり、売り手市場であるが故に、賃金や職場環境等で大企業と勝負できなく苦慮している。	燃料販売

## （4）サービスその他

●採用は困難となるので、定着に注力していく。またマンパワーの確保は、代替でシステム導入、仕組みで解決できないかを検討している。	運輸倉庫業 （一般貨物自動車運送業）
●人手は足りているが、後継者の育成（経営者レベル）に悩んでいる。また、自社商品について、内容よりも表面上の価格で選択される傾向にあり、内容に見合った価格であることをどのようにしたら理解していただけるかが課題となっている。	旅行業
●若手経営陣及び社員の育成が遅れていて、今後も困難。事業の発展のためには、他社との事業連携、M&Aが必要と考える。	不動産業 （賃貸、管理）
●ソフトウェア開発要員を主に中途採用にて募集していたが、1名も採用できていない。未経験者の新卒は3名採用となったが、戦力となるには相当時間を要すると思われる。現在は大幅な受注増となっており、一部の社員の負担増となっているのが現状。協力会社からの派遣社員で現状賄っているが、単価も高くまた、他人事のような業務姿勢の方が多く、その場凌ぎの状態となっている。	ソフトウェア開発・ 保守、コールセンター運営
●新規雇用方法の改善、労働環境の整備、賃金の見直し等、雇用形態の多様化（派遣、在宅労働等）などにより、人員の確保を目指している。	広告物の企画・制作